

関川・保倉川治水対策検討部会 の検討結果について

平成29年7月27日

北陸地方整備局 高田河川国道事務所

関川・保倉川治水対策検討部会の検討結果

「関川・保倉川治水対策検討部会」（以下、「検討部会」という）は、関川流域委員会の規約に基づき、関川水系河川整備計画（H21.3策定）の再点検にあたり意見を述べる専門部会として平成27年5月に設置され、関川・保倉川の治水対策に対する調査、設計内容や具体的な対応策について、科学的・技術的・経済的な妥当性や設計内容等が住民の懸念・要望に応えるものが確認等を行い、これまでに4回開催しました。検討部会でのこれまでの議論を踏まえ、目標とする洪水流量に対する治水対策案としては、「放水路案」が科学的・技術的・経済的に妥当であり、また、住民の懸念等の観点となる「安全度」「地域への影響」等を総合的に評価すると、他案と比較して優位であることが確認されました。

第1回検討部会（平成27年5月27日）

治水対策の現状（現計画案）

- 関川・保倉川治水対策の現状について確認。

現地調査（平成27年8月5日）

現地調査

- 関川・保倉川の治水対策に対する調査、設計内容や具体的な対応策を確認する基礎調査として、ヘリコプター並びに車による現場調査を実施。

第2回検討部会（平成27年12月17日）

関川・保倉川の改修経緯

- 関川・保倉川の改修経緯について確認。
- 河川整備計画に関する治水対策検討経過について確認。

治水対策案の確認

- 第1回検討部会と現地調査結果に基づき治水対策案7案について確認。
- ダム案と堤防嵩上げ案は治水対策案から棄却。
- 引堤案、河道掘削案、遊水地案、放水路案、田んぼダム案は継続検討。

第3回検討部会（平成28年11月25日）

治水対策案の確認

- 第2回検討部会で継続検討とされた5案と「遊水地+田んぼダム」案について確認。
- 引堤案、河道掘削案、田んぼダム案、「遊水地+田んぼダム」案は治水対策案から棄却。
- 遊水地案、放水路案は継続検討。

第4回検討部会（平成29年5月30日）

最適な治水対策案の確認

- 遊水地案、放水路案の治水効果について確認。
- 放水路案が科学的・技術的・経済的に妥当であり、また、住民の懸念等の観点となる「安全度」「地域への影響」等を総合的に評価すると、他案と比較して優位であることを確認。

■関川・保倉川治水対策検討部会 委員名簿

氏名	所属	備考
小池 俊雄	土木研究所	部会長
中出 文平	長岡技術科学大学	
野口 和広	上越市副市長	
細山田 得三	長岡技術科学大学	
森井 俊廣	新潟大学	
安田 浩保	新潟大学	



第4回検討部会状況

■ダム案

⇒地すべり防止区域の範囲が多く、ダムサイトの適地が少ない等、技術的な面から棄却。

■堤防嵩上げ案

⇒低平地でH.W.L.を上げることの怖さがあるため棄却。

■引堤案・河道掘削案

⇒関川本川に影響を与えるため棄却。

■田んぼダム案

⇒能動的管理ができず、効果に対する確実性などに課題があるため棄却。

■「遊水地+田んぼダム」案

⇒田んぼダム案は河川整備の効果に見込めることが難しいため、遊水地案との複合案としては棄却。

■遊水地案は優良農地への影響が大きく、湛水した水を排水する時間を要し危険性が長くなる。

■放水路案は洪水が短時間に流れ、河川の水位が上がりにくい状態となる。河川水位のピークは同じでも高い水位が継続する時間が短い。放水路案が妥当。